

2018年 7月 4日

広島大学理事・副学長（教育・東千田担当）

宮谷 真人 殿

広島大学教育室副理事（附属学校担当）

由井 義通 殿

広島大学教職員組合

執行委員長 坂元 国望

副理事と附属学校園諸問題検討委員会との懇談会の申し入れ

配置換えを含む附属学校園のあり方について、教育室・由井副理事と当組合の附属学校園諸問題検討委員会との懇談会を求めます。

（内容）

1. 配置換えについて

「配置換え」に伴うメリット、デメリットについて組合内では、議論を重ねてきました。その中で働く側の不安要因は主に以下であると考えています。したがって、これらが改善できない場合はよりよい人事交流にならないと危惧し、配置換えそのものの見直しも必要であると考えます。

- 1) スキルアップという目的は、配置換えでなければ達成できないのか。他の方法があるのではないのか。配置換えによって何をどのようにスキルアップするのか具体が見えない。教員は個別研究テーマを抱え、各附属学校園で勤務している。配置換えはその見直しや変更につながる。変更してまでも何らかのスキルアップが必要ということであるならば、新たなテーマ設定等に関しても該当者への説明が必要。
- 2) 個人が被る負荷があまりにも大きい。金銭的問題（長距離通勤）、地域家族との分断、かかりつけの医療機関の変更等。
- 3) 上記2)の個人が被るだけでなく、在任期間が長い他教員への負担が大きくなりがちである。
- 4) 10時間縛りの超過勤務問題にも係るが、負担が増加した教員は10時間では収まらない。
- 5) 常に附属学校園では経費不足を問題視されている中、このような配置換えは大学にも経費負担を生じさせている。その経費増をしてまでやる必要があるのか。

2. 全附属学校園の今後の展望について

附属学校園の再編計画が滞っている現在、今後の附属学校園のあり方についての話を求めます。

以 上